

# 社会を明るくする運動

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」。市では啓発事業の一環で、市内の小中高校生を対象に作文を募集しました。広報きくち9～11月号で各部門の最優秀作文を紹介します。

中学生の部最優秀作文

## 人生も地球のように一周を

菊池南中学校3年 たなか れいか 田中麗佳さん



「高齢者問題」について、あなたは何を思い浮かべ、それについてどのように思っていますか。

今や3人に1人は65歳以上といわれています。私は高齢者問題について考えた時、いくつか思い浮かぶ事があります。

1つ目は、認知症についてです。平成29年に内閣府が発表した「高齢者社会白書」によると、平成24年は認知症高齢者数が462万人と、65歳以上の高齢者の約7人に1人（有効率15・0割）でしたが、このままいけば、令和2年の東京オリンピック頃には、約5人に1人になると推計されています。

しかし、それ以上に大問題なのが「高齢者を支えようとする周囲の姿があまり見られない」ということではないかと思えます。

去年の冬頃の話です。私がインフルエンザで病院から出た時、少し前をおばあちゃんとその娘さんらしき人が帰っていました。おばあちゃんは体も弱そうでよろよろしながらゆっくり歩いていました。しかし、娘さんはおばあちゃんの前をまるで他人のようにスタスタと歩き、たまに後ろを冷めた目線で振り返っていました。その姿はあまりに切なく、

自分が助けてあげたいと思うくらいでした。おばあちゃんはそれでも娘さんに、

「ごめんね」と言っていました。最近、こんな状況をよく目にするなあと思っています。

道で困ったり、ゆっくり歩くお年寄りを冷たく見る人もいます。そして「嫌だなあ」と思いながら結局何もできない自分もいます。これが今の日本なんだな、さみしい世の中だと思えました。

インターネットで見た絵で忘れられないものがあります。2人の人物の成長を表したもので、1人は赤ちゃん、1人は親なのです。赤ちゃんはだんだんと大きくなり、大人になります。当たり前ですが、それと同じ様に親も年を取り、体がきつくなって、次は子供が小さい頃に親が自分にしてくれたように、親へご飯をあげたり、支えてあげたりしていました。やはり人生は支え合うべきなのだと強く感じました。

私の祖母も認知症で老人ホームに通っています。老人ホームの方々は祖母にいつも優しく笑顔で、接してくださいます。祖母が嬉しそうに職員さん達に

「ありがとう」

と言っているのを見て、「自分もそんな人になりたい」と思い、職場体験も老人ホームを希望しました。そこで、お年寄りを支える仕事の責任の重さや、お年寄りへの接し方、話し方を学ぶことができました。今回学んだ事を皆に伝えたいと思います。

私達が今こうして暮らせているのは、世の中を創ってきた人がいたからです。おじいちゃん、おばあちゃんがいてくれたおかげです。私達の手を差しのべれば、「ごめんね」が「ありがとう」に変わります。

自分達が成長するまでに、ご飯を作ってくれたように、お風呂に入れてくれたように、歩く時に手をつないでくれたように、成長を優しく見守ってくれたように。次は私達がする番です。そうやって互いに支えながら生きていきたいです。

